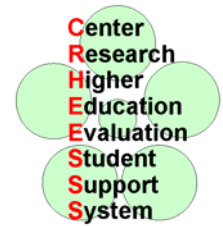


週刊センターニュース No.31



第31号(2004年10月12日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会への話題提供のお願い

大学教育開発・支援センターでは、昨年度末より教育改善や法人化後の大学環境の変化など、多様な視点から、教職員の間で自由に議論できる場を提供すべく共同学習会を企画してきました。今後も皆様のご意見やご希望を反映させながら企画を進めて参ります。例えば、授業作りやFD関連の話題なども共同学習会で重点的に取り上げていきたいと考えております。共同学習会への大学教育についてのさまざまな話題の提供をお願いいたします。

共同学習会のご案内

第40回 日時: 10月13日(水) (10時30分 ~ 12時)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 山田 実 教授(工学部教育方法改善委員会委員長)

題目: 「工学部のFDについて」

第41回 日時: 10月22日(金) (16時20分 ~ 17時50分)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 西山 宣昭(大学教育開発・支援センター)

題目: 「京都大学、東京大学、九州大学のカリキュラム、少人数ゼミ科目について」

内容: 京都大学総合人間学部および東京大学教養課程のカリキュラム、および京都大学、九州大学の全学少人数ゼミ科目について行った調査結果を報告する。

なお、共同学習会に参加できない場合でも、事前にご意見、ご質問などをお知らせいただき、議論に活用させていただきたいと思っております。ご連絡ください。

第7回金沢大学教養教育全学研究会レポート

9月13日、金沢大学サテライト・プラザ集会室において教養教育全学研究会が開催された。障害学生支援と学習支援という2つの柱で講演、議論が行われた。

今春、本学理学部に聴覚に障害を持つ学生が入学したことを契機に、支援体制が議論、整備されつつある。その経過と今後の取り組みについては当センターの青野より詳しく報告された。さらに筑波技術短期大学障害者高等教育センターの白澤麻弓先生より、聴覚障害学生に対して学習面でどのような配慮が必要かについてお話を伺った。筑波技術短期大学は障害のある学生だけを集めて教育を行う3年制の国立大学で、視覚部と聴覚部とからなる。障害者高等教育センターは、学内、学外の聴覚障害を持った学生の支援体制についての相談に応じるために設立された。講演では、授業者やノートテイクが障害を持った学生に対して配慮すべき点が詳細に説明された。授業者には、すべての受講生に対して分かりやすい授業をする義務があるし、障害を持った学生もまたその一人であり、愛情を持って情報保障に努めてほしいとのメッセージを述べられた。同時に、不慣れな授業者を支援してゆ

く体制も大学内に必要ではないかという意見であった。

議論では、身体的な障害を持った学生への対応とともに、明確な障害とは呼べないレベルの精神を病む学生にどう対処したらよいかというデリケートな問題が存在するとの指摘が出された。筆者は、引きこもりや学習意欲の低下した学生を指した指摘と理解したが、そのような学生はかなりの数にのぼると思われ、重要な問題と考えられる。障害を持った学生をいかに支援するかについて、より広い枠組みの中で考える必要性が認識された。

学習支援に関しては、金沢工業大学工学基礎教育センター長の水澤丕雄先生より、金沢工業大学での取り組みについてお話を伺った。きめ細かな学習支援で全国的に知られているが、カリキュラム改革などの教育改革が平成7年に実施されて以来、およそ5年ごとに繰り返し見直しが行われており、その成果といえる。特に同大学の組織的な個別教育は徹底している。工学基礎教育センターはその象徴的存在で、学習に関するなんでも相談にセンター専任の教員が8時半から18時までいつでも対応する体制がとられている。授業担当教員も小テスト等の結果をみて、センターに相談に行くように声をかける。また授業内容の補講にあたる授業理解度向上プログラムや休業中を利用した授業よりも高度な内容の講座を開くなど、日常的な個別的学習支援が行われている。一方、工学基礎教育センターにおいては、学生が自主的に参加して、ものづくりを行う夢工房が実施されていたり、数理科学についても同様の取り組みが数理工房として計画されており、学生の学習に対する自主性を育成するという取り組みも同時に行われている。

水澤先生に続き、本学外国語教育研究センター長の矢淵孝良先生より、語学相談室の活動、各種検定の模擬試験の実施、e-learningによる自習支援など、センターの学習支援活動の現状と今後の問題点についてお話を伺った。

なお、今回の研究会の詳細な内容については、近日中に共通教育課により本学ホームページに掲載される予定である。（文責 西山）

第39回共同学習会「国立大学法人と学生支援」より

10月6日、表記テーマで共同学習会を行った。平成16年度メンタルヘルス研究協議会が9月15、16日東京で開催され、各大学、高専による報告が行われた。今回、上梨清学生支援課長、高畠秋雄学生相談係長、青野透当センター長より、その内容について紹介していただいた。メンタルヘルスといっても、ここ数年は教育、大学生活においていかにきめ細かな学生支援を行うかに話題が集中する傾向にあるとのことであった。本学共通教育機構が実施している「なんでも相談室」は、全国で2番目に開設された先進的な取り組みであったが、現在では多くの大学で同様の学生相談の体制が整備されつつあるとのことであった。さらに、保護者への学生の成績通知、アカデミックハラスメントへの対応など様々な学生支援についての国立大学の事例報告を3氏より詳しく解説していただいた。教員が集まった分科会と事務職員の分科会とでは、学生相談体制の現状での問題点についての認識が食い違っており、この問題のデリケートな性格が現れていると思われる。本共同学習会においても、教員、事務職員双方から本学の現状について活発に意見が交わされ、有意義な議論であった。教職員におかれましては、大学教育についての学会、シンポジウム等に参加された際には、ぜひ共同学習会でその内容をご紹介いただければと思います。ご連絡ください。（文責 西山）